

今年 30 周年を迎えたドイツのハイエンド・ショー

ドイツ、ミュンヘン
High End 2011 レポート

未だ、真空管アンプやアナログレコードが現役で活躍
ここはまさにオーディオ界のガラパゴスだ！

森 芳久

本誌でも毎年取り上げてきた、オーディオ・ファイルの夢の祭典、ドイツのハイエンド・ショーが今年も5月19日から22日まで、ミュンヘンの博覧会場 MOC (Munich Order Center) で開催された。早いものでこのハイエンド・ショーも今年は30周年と記念すべき年を迎えた。それだけに、ハイエンド協会はもちろん、参加各社の熱の入れ方も例年に増して強いものが感じられ、会場も例年より広くなり、出展社も337社と昨年の258社を大きく超え大盛況な催しとなった。

今や、このハイエンドは高級オーディオに関するショーとして、名実共に世界最大のものとなっている。同じハイエンド関連のショーとして大きな催しは、毎年1月初旬に開催されるラスベガスの CES である。この CES は電気製品の全てが集まる世界最大の電気関連ショーであり、この中に高級オーディオ専門メーカー各社がメイン会場とは別の会場(近年はベネチアン・ホテルの専用フロアを貸し切って行われている)で開催している。しかしながら、CES は本来電気業界関係者のみの集まりであり、直接ユーザーと関係者が一同に会する最大のショーは、このドイツのハイエンド・ショーということになる。

世界的にオーディオ・マーケットが減少するという厳しい情勢の中、このハイエンド・ショーだけは毎年出展社数が増えている。これはハイエンド協会の地道な啓蒙活動と会員会社との密接な関係保持を努めていることの現れであろう。またハイエンド協会では、観光局や旅行会社などショーに関係する各団体との連携を深め、ミュンヘン市の協力も取り付けている。そのため、ハイエンド・ショーの PR は徹底しており、街のそこそこでポスターを見ることができる。しかも、このポスターや宣伝物などが、毎年同じイメージを踏襲しており、まさにその潜在的反復宣伝効果が機能しているように思える。この点は日本オーディオ協会もおおいに学ぶべきと考える。

このショーには参加者を楽しませる多くの工夫がされている。そのひとつは、会場ではいろいろな場所で生演奏が披露され、来場者を和ませると同時に生演奏の魅力と最上のオーディオをイメージさせる演出だ。今年もすっかりお馴染みとなったサキソフォン・シスターズが会場のあちこちで人気を博していた。次に、貴重なアナログ・ディスクや CD ソフト即売コーナーなどが用意され、多くのソフトが販売されていることだ。オーディオファイルの人気の場所として、普段入手困難なレアな LP レコード、オーディオ・レーベルの高音質 CD、また SA-CD ソフトなどが買い求められていた。

そして、カフェテリア、レストラン、屋外ビアホール、休憩場所などが完備され、仲間との語

らいや商談などができるスペースが十分に用意されていることである。出展社によっては、隣室に商談場所や簡単な飲食サービスの場所を用意しているところもあり、世界からの客人をもてなしてくれる。また業界やプレス関係者向けには初日にプレス・カンファレンスも催され、このショーの大きな方向性や最新の動向などが解説された。特に今回は 30 周年記念として、過去の歴史なども披露された。

今年の大きな特徴は、コンピュータ、またブロードバンド配信による高音質オーディオの行く末を占ういろいろな思索が発表されたこと。さらにデジタルアンプと新しいスピーカーの誕生などである。新しいスピーカーが多く誕生するとオーディオ界に活気が溢れると言われているが、是非このジンクスを期待したい。

一方、今年も真空管アンプまたアナログプレーヤーなどが健闘しており、さらにそれらの新製品なども続々と登場していた。最先端技術を導入した製品も誕生する中、こうして未だ真空管、アナログプレーヤーが堂々と主役として生き続けているのもハイエンドの世界ならではの。そう、まさにこのハイエンド・ショーはオーディオ界のガラパゴスなのだ。ガラパゴスだからこそ、オーディオの進化の歴史、そしてそこに住む喜びを満喫できるのかもしれない。

それでは、今回の会場の様子を写真で追ってみよう。

① 今年の会場は何とんでも 30 周年ということで、特別ロゴを配した垂れ幕やポスターがひと際目に付いた。例年になく華やいだ感じがあちこちで見受けられた(写真 1)。



(写真 1) 会場のあちこちに誇らしく輝く 30 周年記念ロゴ

② 今年、最も注目を集めたスピーカーは KEF の Blade(写真 2A)だ。Blade という名が示すように、刃のような特徴ある形状と水平対抗型のウーハーユニット(写真 2B)がその音の秘密だ。KEF らしい繊細な音に加え、フォログラフィックな音像が印象的であった。



(写真 2A) KEF の新製品スピーカー
Blade



(写真 2B) KEF の Blade の心臓部
スピーカーユニット

③ アンプと SA-CD プレーヤーで、既に日本でも人気のある LINDEMANN は小型のスピーカー Birdland BL-10 (写真 3) を発表。小型ながらしっかりした音で低域の迫力も満点。音とデザインを両立させたスタンド付きで€7,000/ペア。



(写真 3)
リンデマンの
新製品、
小型スピーカー
Birdland BL-10

④ ABSOLUE CREATIONS から珍しい
リップル型スピーカーが登場(写真 4)。
このような製品に接することができるのも
ハイエンド・ショーの魅力である。



(写真 4)
ABSOLUE
CREATIONS
の珍しい
リップルスピーカー

⑤ EBTB (Everything But The Box)
「箱 (スピーカーボックス) 以外の全て」を
標榜するブルガリアの美しいスピーカー。
今年もこの独特のフォルムを持つ Pluto
(写真 5)が注目を集めていた。



(写真 5)
EBTB の
スピーカー
Pluto

⑥ ドイツの AXISS ブースでは USB
パワースピーカー、OlasonicTW-S7 が。
人気を集めていた。

これはハイエンドとはいえないものだが、
PC や Mac などの USB 端子からの電源
供給で最大出力 10W-10W を誇る堂々たる
迫力の音を再現する。

日本の東和電子で開発され、既に国内の
通販などでベストセラーとなっているものだ。



(写真 6)
AXiSS のマンザー
ノさんと Olasonic
TW-S7

⑦ 毎年、人気のブースがオールホーンの avantgarde (写真 7) だ。今や、スピーカーのみならずアンプにまで進出、オールホーンならではの魔力に磨きがかかり、聴衆はしばしこの音に誘惑される。



(写真 7)
avantgarde の
魅惑の音

⑧ avantgarde と対照的な音作りが同じドイツメーカー、mbl だ。既にこのブースでは恒例となった、生演奏との比較試聴のデモ。(写真 8)

装置はフラッグシップモデルの Reference シリーズにスピーカーは超弩級 101 X-treme。

演奏者自らが生楽器に近いその音の特徴を解説していた。



(写真 8)
毎年恒例となった
mbl ブースでの
生演奏

⑨ 今年のデジタルアンプの中で、最も話題を呼んだのがフランスの DEVIALET のアンプだ。超薄型で鏡面仕上げの特徴あるデザインもまた注目を浴びていた。(写真 9)



(写真 9)
鏡のような鏡面仕上げの
DEVIALET のデジタル
アンプ

⑩ ハイエンドの世界では接続ワイヤーも重要なコンポーネントだ。今年も多くのワイヤーメーカーがその技術と音を競っていた。

中でも高音質ワイヤーの草分けともいえるオランダのファン・デン・フル氏が新製品 3T シリーズをデモ(写真 10)。

3T とは True Transmission Technology を意味し、彼の今までの研究成果を全て投入して完成したという。彼の真剣な眼差しがそれを物語る。



(写真 10)
ファン・デン・フル氏と
新製品 3T コード

⑪ ハイエンドの世界にも高品位のダウンロード・ソースが多く販売され、また CD や SA-CD プレーヤーに代わり、コンピュータもまたハイエンドのコンポーネントとなってきた。それに呼応して高品位 USB ケーブルなるものも昨年より登場し始めている。今回もこの高品位 USB ケーブルは話題を呼んでいた(写真 11)。



(写真 11)
ハイレゾ USB
ケーブルに人気

⑫ Clockwork Audio の電源ケーブルや接続ケーブルもまた面白そうである。

ハイエンド機器の音質チューナーとしてこの世界では“知る人ぞ知る”鬼才フォルカー・バヨラー氏(写真 12)の手になる製品で、彼の魔法のチューニングを試してみたかったが、今回は残念ながら試聴する機会がなかった。



(写真 12)
超人的音質チューナー、
フォルカー・バヨラー氏

⑬ ガラパゴスに生き残る真空管のアンプたち。トランジスタ誕生から既に 60 年を経た今日もその光は薄れていない。これは豊富なラインナップを持つ Ayon のブース (写真 13)。



(写真 13)
Ayon
真空管アンプ

⑭ 今や真空管アンプの大御所となったチェコの KR。

看板モデルの超大型真空管アンプに加え、真空管と半導体のハイブリッドアンプも開発。亡くなったご主人の後を引き継ぎ社長として采配を振るうユニース・クロンさん(写真 14)。獣医の資格を持つドクターだ。

以前は日本でも販売されていたが、現在代理店を模索中。



(写真 14)
チェコの KR の
オーナー、
ユディースさん

⑮ 30周年記念の開催に沸く今回のショー。華やかなムードに演出され例年よりも会場面積も増え、ハイエンド・オーディオ健全なりの印象を受けた(写真15)。



(写真15)
メイン会場の
広場、30周年の
マークが誇らし
く輝く

⑯ オープンブースが並ぶアトリウム会場(写真16)。

ここを巡れば親しい顔に出会うはずだ。



(写真16)
アトリウム会場
の雰囲気

⑰ 今年も人気のソフト販売コーナー(写真17)。例年よりも出展社が増え賑わいをみせていた。



(写真17)
今年も人気の
ソフト即売
ブース

⑱ 会場のあちこちで生演奏が楽しめるのも、このショーの大きな特徴でありまた来場者を喜ばせる呼び物でもある(写真18A)。



(写真18A)
ブースでは生演奏
もある

ここ数年レギュラーで努め、すっかりお馴染みとなったサキソフォン・シスターズが今年も屋外内で雰囲気を盛り上げていた(写真18B)。



(写真18B)
お馴染み
サキソフォン・
シスターズ

⑱ 最新の技術動向や新製品についての解説や紹介が行われる技術講演会場（写真19）。



(写真 19)
技術講演会

⑳ イタリアのオーディオレーベル fone を主宰する、ジュリオ・チェザレ・リッチ氏(写真 20)。

彼はこのハイエンドの多くのブースで自ら録音した CD、SA-CD、アナログレコードなどをデモした解説をする。

往年の名歌手パバロッチェに似た風貌が説得力を増す。



(写真 20)
毎回各ブースで自身のディスクや SA-CD をデモする
シニョーレ、リッチ

㉑ 毎年発行される貴重な資料、ハイエンドのカタログ(写真 21)。400 ページを超える豪華なカタログが 10€ (約 1,150 円) とは安いのではないだろうか。



(写真 21)
実用的かつコレクションとしても貴重な豪華カタログ

㉒ シャトルバスで指定のホテル数箇所と会場を結ぶ無料シャトルバスに加え、今年は地方や海外から飛行機で来場する客に飛行場と会場の往復バス(初日と2日目のみ)のサービスも加わった(写真 22)。
こんなところにも、ハイエンド協会の力の入れ方がわかる。



(写真 22)
シャトルバスも用意
(ホテル、飛行場など)

②③ ミュンヘンM.O.C会場の外観
(写真 23)。シャトルバス以外に、
U バーン(地下鉄)でのアクセスも便利。



(写真 23)
会場の建物外観

②④ 街のあちこちで見かけるハイ
エンドのポスター(写真 24)。

毎年同じイメージを踏襲し継続効果を
期待している。日本オーディオ協会でも
見習うべきではないだろうか。



(写真 24)
街中に見られる
ハイエンドの
ポスター

②⑤ 初日夜に開催された 30 周年記念
パーティー(写真 25)。

約 1000 人の業界関係者が一同に集い
その歴史を祝った。



(写真 25)
記念パーティー
会場は 1000 人
ものオーディオ
ファンが詰め掛
けた

②⑥ 挨拶に立った、ハイエンド協会
会長のクルト・ヘッケル氏(左)と
副会長のアレックス・マニング氏(右)。
(写真 26)



(写真 26)
会長と副会長
の挨拶

②⑦ 料理はもちろん、ソーセージ
や豚肉そしてポテトがふんだんな
ババリア料理(写真 27)。



(写真 27)
味も量も満点、
ババリア料理

②⑧ 飲み物も当然ミュンヘンの地ビール (写真 28)。ビールよりウエイトレスに目が行く。



(写真 28)
飲み物は当然
ミュンヘンの
地ビール

②⑨ そしてパーティーのメイン・エンターテインメントはロックのライブだ (写真 29)。

7時にオープンしたパーティーは深夜の2時まで続いた。



(写真 29)
記念パーティーの
イベント

最後に、今回の出展社数、来場者数などのファクト・データーを示した(図 1)。これらの数字は第三者機関による厳正な数字で、来場者数の中には出展社関連の人数はカウントされていない。

来場者数こそ昨年より減少したが、出展社は大幅に増え、その分感覚的には例年より盛況であった印象を受けた。ミュンヘンでのオーディオの熱い風がこの秋の日本のオーディオ界を熱く刺激してくれることを切に望む次第である。

High Endのファクトデータ				
年度	2009年	2010年	2011年	前年比
スペース	18373m ²	←	20000m ²	+8.9%
出展社	248社	258社	337社	+30.6%
報道関係	438人	446人	437人	-2.0%
来場者 (業界人)	13677人	14869人 (3894)	14079人 (4398)	-5.3% (+14.3)

(図 1) ハイエンドのスペース、出展社、来場者など、近年の推移